

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者今後の人生、その時間を共有し、幸福な思いで生活できるような雰囲気づくりが、当経営者の根本理念である。	○	理念は簡単明瞭化し、目につきやすい所へ掲示し、常に利用者本位で考えた理念として、活かしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各職員が、日々の利用者の気持ちに沿いながら、理念を実践できるように、ミーティング等において、お互いの意見を交換し、認識を新たにしている。	○	理念を理解し共有していくよう、管理者は職員に常々説き続け、毎朝の宣言により徹底を図っていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族との対話の中に、常に職員の気持ちを伝え、気配りしている。	○	家族との交流の時間と話し合いの機会を、常に持つようにしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所からいただいた野菜や果物を食事に取り入れたり、花などを飾り、いつでも立ち寄っていただくよう案内に努めている。	○	当ホームの畑の作物を、隣近所の方に差しあげられるよう、全員で収穫に取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会等から案内をもらった場合は、積極的参加し、行事や地域活動には、利用者と一緒に職員も交流するよう努めている。	○	地域の方に当グループホームを案内できるよう、合唱等を練習し、地域の方々に披露していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の情報収集に気配りし、体制を整えている。	○	キャラバンメイトとして、地域貢献するため、講師として話したり、地域の相談役になる等、積極的に取組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で、真剣に評価に取り組み、改善に向けて努力している。	○	運営推進会議の時、メンバーで話し合い、外部からの意見を参考として、改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の基盤を確立し、参考になる意見をいただき、サービス向上への糧となっている。	○	会議の意見等を参考に、職員が問題を共有し、考え、実践に運ぶ体制を確立していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に市へ足を運び、職員と交流し、当ホームの意向の伝達や意見を聞き、参考にしている。	○	介護保険課との情報交換に努め、地域貢献、サービス向上の指針、介護保険の動向を適確につかむことができるよう努力していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中に権利擁護制度利用を経て、後見制度の該当者がおり、月1回以上、後見人の司法書士の面会時に、必ず、勉強会をしている。	○	今後も継続し、取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、月1回は委員会を開き、家族ともよく話し合い、現状の理解を得ている。	○	研修等には積極的に参加し、レジュメを公開、各職員が情報を共有し、話し合う機会を定期的につつようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については、十分時間を取り、一つ一つ検討し、家族の理解を得ている。納得していただけるまで、説明している。	○ 時間をゆっくり取り、話し合うことで解消するよう努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員等から語りかけ、話しやすい雰囲気づくりをしている。また、お茶の時間に、職員間で常に意見交換し、後で検討、反映していつている。	○ 意見箱を作り、不満や苦情の場合は、投稿してもらう等、取組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホームだよりを送付したり、訪問時または電話にて、自宅へ細めに連絡を取っている。	○ グループホームだよりの発行と配布を、今後も取組んでいきたい。また、行事の際に家族を招待する等、家族会を行っていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、来訪の家族から忌憚のない意見を直接伺い、運営に反映させている。	○ アンケート調査の機会を設けたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの機会に意見を出しやすいように配慮し、調和できるよう一人ひとりに時間を取り、話し合っている。	○ 職員の意見箱を設置し、意見を伺い、適宜ミーティングやカンファレンスの機会を設けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の人数を十分に揃えているので、対応しやすい。理念の徹底により、職員間の連携はスムーズに行っている。	○ 十分な職員人数を確保しており、利用者の状態変化に応じた柔軟な対応に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が続き、内部が安定するまで難しかった。	○	極端な交代がないよう、新任が馴染むまでは、離職を最小限に抑える努力をしていきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員が勉強することには、大きな理解を持っている。研修費等の負担もあり、遠慮なく研修を公平に受けることができる。	○	財団法人かがわ健康福祉機構と密に連絡を取り、情報収集し、研修等に参加するよう奨励していきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は積極的に行っている。キャラバンメイト登録は、同業者同志、横の連携を広げられた。	○	地域の交流、催し等に積極的に出かけ、交流や情報交換し、取組んでいきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常に、職員と語り合い、ストレス軽減に向けた環境づくりに取り組んでいる。	○	温泉を利用した、くつろぎの場を作る予定であり、今後も継続して取組んでいきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	給与上において励みは認め、精勤手当をつけたりしている。評価を正確にし、向上心を持てるよう励ましている。	○	研修等への参加を優遇し、研修費等を支援しており、今後も継続して取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時にお互いよく話し合い、ニーズを把握し、さりげない会話の中で本人の思い等を受けとめている。	○ こまめな観察も必要であるが、本人と関わる時間を大切にし、機会を作っていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と話し合いの機会を一回でも多く持ち、話しやすい雰囲気を受け止めるよう努力している。	○ 家族の悩みを共有し、共に考えていく姿勢を保持していきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から相談を受けた時、ニーズを見極め、適切な支援、対応ができるよう、自己の感性と柔軟性を磨く努力をしている。	○ 相談されやすい雰囲気を持ち、知識と実施を磨く努力をしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員一人ひとりが、経験豊かな年齢からくるゆとりと包容力により、円滑に行っている。	○ サービス利用への細心の配慮とプロセスは、経験によるものもあり、今後も工夫していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ドリル、ぬり絵、体操など、共に励み、共にテーマを持ち、取り組んでいる。パズルも一緒に考えている。	○ 畑作業等は学ぶべき所が多く、共に過ごす時間を多く持つよう心がけていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とよく連絡しあい、共に考えていく姿勢、体制を保持している。	○	行事の度に家族に声をかけ、共に方向を考えている。話し合いは、よくできているので、今後も継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との良い関係の構築への支援ができ、お互いの心情が心の底から救われたことがある。お互いの良い所をアピールしたり、仲介役として一端を担っている。	○	今後も、本人と家族のよりよい関係に向け、支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へドライブしたり、友人等には気軽に来訪されるよう、細やかな配慮に努めている。	○	従来の親友、友人、親類の方が気軽に来訪してもらえるよう、雰囲気づくりに取り組んでいきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共有できるテーマを提案したり、共同作業ができるテーマの模索に努めている。	○	家族意識を相互に持てるように、職員一人ひとりが支援していくよう努めていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近況を尋ね、時には訪問し、経過を見て、アドバイスしている。	○	他施設へ移った利用者を訪問し、励ましたり、アドバイスをする等の支援を続け、近況を把握していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人ひとりと向き合って話し、その中から入居者の思いを把握するよう努めている。	○ 一人ひとりの生活を細かく観察し、本人に確かめ、より意向が反映できるよう努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との昔ばなし等から引き出しながら、生活歴と読み取るよう努力している。	○ 地域の方と交流し、入居者の昔を知るよう努力していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者や職員の話から、現状を把握するよう努めている。	○ 入居者の生活現状を自分の目で観察し、話し合い、入居者の目線で捉えていくよう努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスの際、本人や家族、職員を交え、医療連携を密に取り進めている。	○ その時その時、職員一人ひとりの意向を聞きながら、第三者の目を大切に介護計画づくりをしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとのモニタリング時に再検討し、緊急が生じた場合は、すぐに、本人、家族、職員、関連医療機関と話し合い、新計画を作成している。	○ 状態変化の際は柔軟に対応し、全体で見直しを行い、すぐに新しい計画を作成するよう努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、個別に時間を追って記録している。また、口頭だけでは忘れるので、申し送りノートに記録し伝え、情報を共有している。	○	申し送り時に、情報を伝達し、引継ぎの職員にしっかり現状を伝えるよう努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の方が路上マーケットとする場所に提供するなど、他の事業所との交流により、さまざまな披露の場として、グループホームを公開の場に提供している。	○	地域や他の事業所との交流により、グループホームの理解や協力を得るよう、働きかけていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練や救急訓練の実施、地域のボランティア芸能の慰問を受けている。また、市の福祉祭りに参加等をしている。	○	地域の介護福祉普及のため、キャラバンメイトとしても協力していきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティアによるストレッチ指導を受けている。	○	リハビリ的な要素のある活動を導入していきたい。また、他事業所との交流、情報交換を行っていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を経て、後見人活用の入居者がいるが、その時は、地域包括支援センターとの連携はなかった。	○	今後の問題に関して、地域包括支援センターと相談し、連携をとっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関との連携により、臨機応変に医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>○</p> <p>連絡、話し合いは、常に密にし、細かい情報まで双方が共有する。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関との連携により、認知症についての適切な指示や助言をもらい、支援できている。</p>	<p>○</p> <p>協力医療機関の認知症専門の医師と、今後も連携し支援していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>訪問看護ステーションの看護師と、看護師の職員との連携により、相談、対応ができている。</p>	<p>○</p> <p>ナースステーションの看護師とグループホームの職員が、常に情報交換し、情報を共有しており、今後も継続していきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院者の現状把握と医師との話し合いにより、常に現況を把握するよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後も、医療機関とは密に連絡、相談し、柔軟に対応していきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ターミナル介護は、医療現場よりグループホームの介護の方が良いと思い、心身ともに、生活の変化に対応できるかどうか協議し、取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>医師や家族等と早い段階から話し合い、連携を取っているため、今後も継続していきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度やターミナル期は、協力医療機関と密なる連携の基に、職員間のチームワークを強化していくため、研修等を利用し、勉強と研鑽に励んでいる。できる限りのことをする意味で、ネブライザー吸引器、点滴スタンド等の器具を設置している。</p>	<p>○</p> <p>職員間のチームワークを強化していくため、今後も勉強と研鑽に励んでいきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族、住み替え先の人々と面接を重ね、交流し、馴染みの関係をつくり、生活の変化によるダメージを緩和するよう努めている。	○	本人が希望を持ち、これまでの暮らしが損なわれないように、これまでの生活環境や支援内容等について情報提供し、住み替えがスムーズにいくよう配慮していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を第一に考え、プライバシーの確保を大切に考えている。	○	職員一人ひとりの意識の中に、その人の尊厳、プライバシーの確保を徹底させていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その場だけの傾聴と共感にならないよう、心から気配りし支援している。	○	入居者の立場に立って考えていくよう、職員の精神面の育成をしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を伺い、気持ちに沿って支援している。	○	自分の希望を、はっきり言える雰囲気づくりに配慮していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着る服は、本人が選んだお気に入りのものを着てもらっている。理美容は、本人や家族の意向をしっかりと伺い、希望に沿うよう配慮している。	○	入居者一人ひとりの好みを、生活の中でしっかり把握し、場面場面でさりげなくサポートしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ等を一緒に行い、食事に期待が持てるよう取り組んでいる。また、お互いに食事の案内もし合っている。	○	対話の中で食事の期待が膨らむように話題を提供し、一緒に準備をする等、楽しく食事できるよう雰囲気づくりに努めたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常の中で、入居者一人ひとりの嗜好を知り、職員はその情報を共有している。また、季節感を盛り込んで、楽しめるよう支援している。	○	今後も、日常会話の中で本人の嗜好をつかみ、職員間で情報を共有していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各居室にトイレがあるので、トイレ誘導をスムーズに行っている。	○	排泄記録をよく把握し、誘導のタイミングをよく把握していきたい。また、異臭のない清潔な場にするよう努めたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴でき、本人の希望に沿って、いつでも入浴できるよう配慮している。また、無理強いはず、本人が自分から、心地よく入浴できるよう誘導している。	○	今後も、本人の希望に沿って、いつでも入浴できるよう配慮していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	声かけに気配りし、お茶を飲んで話し相手になる等、入居者の希望等を考慮し支援している。	○	眠れない時の気配りに配慮し、本人の状態をよく知り、水分補給、話し相手等、適切に対応していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜づくり、野菜や花々の成長の観察、散歩、ドライブ等を支援している。	○	季節を楽しめるよう、周辺環境を活かした散歩、ドライブ、花の見学等を企画していきたい。


	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方には所持してもらい、買い物等をサポートしている。	○	買い物の機会を増やしたり、家族とよく話し合い、本人の希望等に応じて、好きな物は自分で買いに行く機会を作っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	見守りあるいは一部介助にて、天候の良い時は、日光浴、散歩、畑いじりを楽しんでいる。	○	買物時には希望者の同行や、ドライブ機会を増やすなど、取組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お正月やお盆は、家族が可能であれば、一緒に喜び、楽しんでいただけるよう食事会等の機会をつくっている。	○	本人が気持ちよく出かけられるよう、着替えの手伝いや家族への感謝の気持ちを共に表していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望により一部介助し、話ができるように配慮している。	○	レクリエーションで塗り画やハガキ等を作り、家族へ送る等、今後も支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問してもらえるよう心配りしており、訪問者は多い。	○	気軽に出入りできるような雰囲気づくりや居心地よい場づくり、一緒に会話を楽しむ等、今後も取組んでいきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置している。また、定期的に委員会を開き、情報を熟知している。	○	手間をいとわず、拘束のない生活の工夫を怠らないよう、職員の努力を奮起させていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないで、ケアに取り組んでいる。	○	今後も鍵をかけないでいられるよう、細心の注意を払い、見守りや観察をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげない見守りと観察、巡廻等により、安全確認をしている。	○	常に利用者の動行を把握し、見通しのよい環境づくりと職員の連携を強化していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の保管・管理の担当者を決め、近況把握に責任を持ち、職員に伝達している。	○	常に安全を確認し、注意を怠らない体制を強化していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策の研修等に参加し、知識を得るよう努めている。また、日々の生活情報の把握により、事故防止に取り組んでいる。	○	事故防止のために、常に話し合い、状態に応じて、臨機応変に対応していきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地域の消防より、訓練を定期的を受けている。	○	各職員のマニュアルの熟知と、実践できる体制を強化していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防訓練を実施している。	○	地域の人々の協力が得られるよう、働きかけていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクマネジメントの研修等に参加している。また、知識と現実をうまく融和できるよう、家族と話し合い、対応策を考えている。	○	家族との話し合いの記録を、作成していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルの測定により現状を把握し、口頭または申し送りにより情報を共有し、家族、医療機関との連絡を取り、対応している。	○	バイタル測定時に、表情や本人の訴えをよく聞き取り、職員間に伝達し、情報を共有し対応していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理を支援している。記録をつけ、間違いのないよう配慮している。症状の変化を観察し、対応している。	○	気がついたことは、申し送りと現状情報の伝達により、共有していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動を勧めたり、献立を考慮する等、運動と食事療法による対策を取っている。確実に記録し、目安としている。	○	水分補給や食べ物の工夫等により、便秘対策や歩行訓練等に、今後も取り組んでいきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔は見守り、一部介助にて支援している。また、週1回提携歯科医師により、専門的な口腔清潔指導を行っている。	○	今後も、毎食後、口腔内の清潔を行い、担当職員を中心に励行していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者に合わせ、記録を確認し、現状を把握したうえで、分量等の確保を支援している。	○	記録をとることにより、摂取量を把握し、支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	研修等には全員参加し、傾向と対策の把握と実践を心がけている。	○	学んだことやレジュメ等を公開、共有し、職員が情報を把握、実践に活かしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買物は毎日行い、新鮮な食材使用している。洗浄、消毒、煮沸には、細心の注意を払っている。また、互いに注意し合いながら、気配りしている。	○	マニュアルを徹底し、実践していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープ、階段、手すりによる安全性の確保や玄関周りには季節の花を植えたり、玄関には生花を生ける等、工夫している。	○	汚れにより足をとられることがないように、清掃等には細やかな気配りをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にふさわしい掲示や花々を置き、清潔の保持し、異臭のない空間づくりに心がけている。	○	耳の遠い入居者がテレビ音を大きくした時は、お互いに留意するようさりげなく配慮し、騒音等へ配慮していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	作品を掲示したり、くつろげるよう椅子等を置き、談笑できるようにくつろぎのコーナーを作ったり、あんま器等でのんびりできるよう、肩こりほぐしコーナーを作っている。	○	ギャラリーに入居者の作品を掲示し、見て楽しみながら、談笑できるよう、くつろぎの場づくりに配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	設置物や掲示物等、利用者本人あるいは家族と相談しながら、季節に合わせ、居心地よく過ごせるよう配慮している。	○	本人や家族に、常に意見や希望を確かめながら、希望に沿うよう努めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	基本的には空調設備はあるが、換気等への気配りや温湿度計に配備し、入居者の状況に応じて、快適な空間を維持するよう努力している。	○	嫌な臭いのない空間づくりや、清潔感があふれる雰囲気大切にしていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に、整理整頓に留意し、歩行器や車椅子等を廊下で使用する際に、障害がなく安全に通行できるようにしている。	○	歩行器、車椅子等の使用により、できることは自分でしてもらい、見守りと一部介助に徹していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋の入口の飾り等に特徴を持たせ、インパクトにより感性を刺激し、理解してもらっている。	○	各部屋に花の名前を付けることで印象づけ、記憶力を刺激していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りの畑で、野菜づくりや花づくりを行っている。また、観賞用ガーデニング等により、外観の雰囲気づくりをしている。	○	天候が良いときは、歩けない方も日光浴を楽しんだり、元気な方は野菜や花づくりを楽しんでもらっているので、今後も継続していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が幸せな気分で過ごせるような環境づくりに努めている。第一に、気になるにおいのない空間づくりが大切であり、清潔感は気分を爽快にさせると思い、実践している。第二に、食事は身体の源である。たっぷりとした材料で、栄養バランスを考慮し、満足してもらえる物であると自負している。食費制限は一切考えていない。第三に、職員が生き活きと明るく働ける場である。チームワークすなわち各職員の結束により、安心・安全な環境となっている。